

【日進市】 校務 DX 計画

日進市は、センターサーバ型の校務支援システムを平成 26 年に導入するとともに、令和 4 年度には学校 - 保護者間連絡アプリを導入し、教員と保護者間の連絡（保護者からの出欠連絡、学校からの配布文書等）をデジタル化しました。

教員間においては、校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項、各種資料及び教材をオンラインで共有しています。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきましたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多くみられるのも事実です。そのため、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定めます。

1 ゼロトラスト環境の構築

（1）校務系及び学習系ネットワークの統合

日進市では、令和 2 年度に国が掲げる「GIGA スクール構想」に基づき、小中学校のインターネット接続環境を整備しました。その際に、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の 2 つに分離し、「学習系」から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としました。

教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

（2）校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型（市役所センターサーバ上）で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用しています。

保護者連絡アプリなど汎用クラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化について、全国の先進自治体の動向を調査します。そして、校務支援システムの次期更新時（令和 9 年 3 月）のクラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム設計、調達業務等を進めます。

(3) 教育ダッシュボードの構想

授業支援ソフトウェアやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データなど、膨大な教育データを収集・分析・可視化するインターフェース（教育ダッシュボード）を構築し、そこから得られる情報を効果的に活用して、業務及び授業の改善につなげることが期待されています。

教育ダッシュボードの研究・開発については、校務支援システム及び学習 e ポータル等の事業者が進めているところであり、(1)(2)の取組みとあわせて、費用対効果を鑑み、日進市にとって最適な教育ダッシュボードの活用方法について調査研究します。

2 FAX 及び押印の見直し

日進市では、校務支援システム内のグループウェア機能により、学校 - 学校間、市教育委員会 - 学校間の文書連絡・資料送付に活用しています。また、教職員 1 人 1 人に業務用のメールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用しています。

一方で、令和 5 年 12 月に文部科学省より発出された「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されています。

日進市においては、令和 4 年 4 月より学校備品廃棄承認申請の手続きを見直し、押印不要に変更のうえサーバー上でのデータ提出に変更しています。

また、現在、学校給食の食数報告を FAX での報告となっていますが、校務支援システムを活用した運用に変更するよう検討を進めています。

しかし、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者においては、紙ベースや FAX での資料提出を学校に求めるケースが見受けられます。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAX が電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX 及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、市教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

あわせて、各学校に対して、外部へ児童生徒の個人情報など機微な情報を送信する際の注意事項等について周知啓発します。

3 ペーパーレスの推進

これまで、日進市では、マニュアルや様式、会議等で使用する資料などを校務サーバーに保存した電子データで共有してきました。

児童生徒 1 人 1 台端末導入後は、保護者連絡アプリによる教員と保護者間の連絡のデジタル化、児童生徒への各種連絡のデジタル化、職員間の情報共有のデジタル化などの取組みにより、ペーパーレス化を推進してきました。

今後は、学校間をまたぐ会議等においても、授業用端末及び Microsoft365 をはじめとするクラウドサービスの活用により、会議資料のペーパーレス化を一層推進するとともに、電子決裁システムの導入について研究していきます。

4 校務における RPA・生成 AI 等の活用

リーディング DX スクールの生成 AI パイロット校の取組みを参考とし、Microsoft365 の Power Automate などによる定常業務の自動化、生成 AI を活用した校務の効率化を推進します。

5 その他

デジタルドリルの活用が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっています。デジタル採点システムを導入している先進自治体の取組みを参考とし、ICT を活用した採点業務の効率化について調査研究します。